

風水害避難行動計画の作成要領

防災会ごとに地域特性や実情を踏まえ、風水害避難行動計画(別紙)を作成してください。

ステップ1「地域で発生が予想される災害を考える」

下記を参考にして、地域で発生が予想される災害に○を付けてください。
なお、対象とする災害は「洪水(外水氾濫)」「内水氾濫」「土砂災害」の3つとします。

◎洪水(外水氾濫)

大雨により河川の水位や流量が急激に増大することや、堤防が決壊するなど河川が氾濫すること。

(対象となる防災会)

- ・過去に洪水(外水氾濫)が発生したことがある
- ・洪水浸水想定区域内の地域がある など
(参照：洪水ハザードマップなど)



◎内水氾濫

側溝などで降った雨を流しきれなくなり、大きな川などへ排水できずに建物や道路が浸水してしまうこと。

(対象となる防災会)

- ・過去に内水氾濫が発生したことがある
- ・洪水浸水想定区域内の地域がある など
(参照：洪水ハザードマップなど)



◎土砂災害

大雨などにより、山や崖が崩れたり、水と混じり合った土や石が川から流れ出たりすること。

(対象となる防災会)

- ・過去に土砂災害が発生したことがある
- ・土砂災害警戒区域内の地域がある など
(参照：土砂災害ハザードマップ、大分県土砂災害危険箇所情報インターネット提供システムなど)



(参考とする資料)

- ◇ 洪水ハザードマップ、土砂災害ハザードマップ・・・河川課
- ◇ わが家の防災マニュアル・・・防災危機管理課
- ◇ 大分県土砂災害危険箇所情報インターネット提供システム・・・大分県
(http://sabo.pref.oita.jp/bousai_s/dosya_map)

ステップ2「状況に応じた避難行動を考える」

「A.安全に移動できる（災害が発生する前など）」と「B.移動することが困難なとき（既に災害が発生しているときなど）」の2つのタイミングに分けて考えます。

A.安全に移動できるとき (災害が発生する前など)	B. 移動することが困難なとき (既に災害が発生しているときなど)
 <p>災害が発生する前など、避難場所(公民館や指定避難所など)まで移動ができる。 ⇒ 水平避難 (立ち退き避難) …[作成要領] P. 2～3</p>	 <p>周囲が浸水しているなど、避難場所まで移動できず、自宅や近隣の建物の2階以上へ避難する。 ⇒ 垂直避難 (屋内安全確保) …[作成要領] P. 4</p>

さらに、この2つのタイミングごとに、**各地域で発生が予想される災害を想定し、「①状況」「②避難行動開始の目安」「③避難行動」「④避難場所(目安)」**を事前に定めておくこととします。

A・Bそれぞれの項目①～④は、以下を参考に記入してください。

A.安全に移動できるとき (災害が発生する前など)

①状況

災害が発生する前に避難行動が必要な状況は、どういう時なのか考えましょう。

- ◎洪水(外水氾濫)・・・○○川の水位が上昇している。
- ◎内水氾濫・・・○○川の水位が上昇している。
大雨が降ることが予想されている。
- ◎土砂災害・・・大雨が降ることが予想されている。

<ポイント>

- ・今回、作成する計画では、状況に応じた避難行動を検討するために、「**A.安全に移動できるとき(災害が発生する前)**」と、「**B.移動することが困難なとき(既に災害が発生しているときなど)**」についての状況を考えます。
- ・ここでは、「**A.安全に移動できるとき(災害が発生する前など)**」は、どんな状況なのかを想定してください。

②避難行動開始の目安

上記の「①状況」になった場合、避難行動を開始する目安は、どういったものが事前に考えておきましょう。

- ◎洪水(外水氾濫)・・・○○川の○○水位観測所が氾濫危険水位(○.○m)に達した。
堤防に異常(ひび割れ、漏水など)が発見された。
- ◎内水氾濫・・・側溝の水があふれ出し、周囲が浸水するおそれがある。
○○樋門が水門操作を開始した。
○○排水ポンプ場が運転調整を開始した。
地区に設置した量水標が○○に達した。
- ◎土砂災害・・・土砂災害警戒情報が発表された。
土砂災害の前兆現象を見つけた。
(前兆現象) ・崖から濁った水が出ている。
・斜面にひび割れができています。

<ポイント>

- ・河川の水位情報は、川の防災情報 (<http://www.river.go.jp>) で確認できます。
- ・お近くの樋門や排水ポンプ場は、洪水ハザードマップで確認できます。
- ・土砂災害警戒情報、気象警報、避難指示等の避難に関する情報は、大分市防災メールで配信されます。(要登録)
- ・地震等の前兆もなくおそってくる災害と違い、大雨は天気予報等で、いつ、どれくらいの雨が降るのか予測ができます。大雨による災害から身を守るためには、安全に移動できる状況での避難行動が最も重要となります。

③避難行動

上記の「②避難行動開始の目安」になった場合、こういった避難行動をとる必要があるのか事前に考えておきましょう。

- ◎洪水(外水氾濫)・・・浸水想定区域外へ移動する
- ◎内水氾濫・・・・・・・・浸水想定区域外へ移動する。
- ◎土砂災害・・・・・・・・土砂災害警戒区域外へ移動する。

<ポイント>

- ・洪水や土砂災害が発生するおそれがあるときは、洪水や土砂災害が発生する前に、浸水想定区域や土砂災害警戒区域の外へ避難することが基本となります。
- ・**「B.移動することが困難なとき(既に災害が発生しているときなど)」**については、後段で記載しています。

④避難場所(目安)

上記の「③避難行動」を行うときに、どこの避難場所を目指すのか考えましょう。

- ◎洪水(外水氾濫)・・・浸水想定区域外の場所(自治公民館、指定避難所等)
- ◎内水氾濫・・・・・・・・浸水想定区域外の場所(自治公民館、指定避難所等)
- ◎土砂災害・・・・・・・・土砂災害警戒区域外の場所(自治公民館、指定避難所等)

<ポイント>

- ・浸水想定区域は、洪水ハザードマップで確認できます。
- ・土砂災害警戒区域や土砂災害危険箇所は、大分県土砂災害防止法インターネット提供システム (http://sabo.pref.oita.jp/bousai_s/dosya_map) で確認できます。
- ・最新の土砂災害警戒区域は、大分県大分土木事務所管理課、大分市河川課(本庁舎6階)に設置している公示図書で確認できます。
- ・自宅等が浸水想定区域や土砂災害警戒区域の外にある場合は、無理に避難場所まで移動する必要はありません。

B.移動することが困難なとき（既に災害が発生しているときなど）

①状況

避難場所等へ移動することが困難な状況は、こういった時なのか考えましょう。

- ◎洪水(外水氾濫)・・・〇〇川で氾濫が発生した。
- ◎内水氾濫・・・・・・・・・・周辺の道路が冠水している。
- ◎土砂災害・・・・・・・・・・夜間などで屋外への避難がかえって危険なとき。

<ポイント>

- ・前段で「A.安全に移動できるとき(災害が発生する前など)」を想定していますが、ここでは、「B.移動することが困難なとき(既に災害が発生しているときなど)」は、どんな状況なのか想定してください。

②避難行動開始の目安

上記の「①状況」になった場合、避難行動開始の目安になるのは、こういったものか事前に考えておきましょう。

- ◎洪水(外水氾濫)・・・〇〇川で氾濫が発生した。
- ◎内水氾濫・・・・・・・・・・周辺の道路が冠水している。
大雨警報(浸水害)が発表された。
- ◎土砂災害・・・・・・・・・・土砂災害警戒情報が発表された。
土砂災害の前兆現象を見つけた。
(前兆現象)・崖から濁った水が出ている。
・斜面にひび割れができています。

<ポイント>

- ・「A.安全に移動できるとき(災害が発生する前など)」では、河川の水位等の情報を避難行動開始の目安にしていたが、ここで言う「移動できない」という判断は、道路が冠水しているなど現地の状況を目安とするのがよいでしょう。

③避難行動

上記の「②避難行動開始の目安」になった場合、こういった避難行動をとる必要があるのか事前に考えておきましょう。

- ◎洪水(外水氾濫)・・・自宅や付近の2階以上の高いところへ避難する。
- ◎内水氾濫・・・・・・・・・・〃
- ◎土砂災害・・・・・・・・・・自宅や付近の2階以上の高いところへ避難する。
崖や斜面から離れた場所へ避難する。

<ポイント>

- ・夜間や付近の道路が冠水しているときなど、避難場所への移動が困難なときは、自宅や付近の2階以上の高いところなど、身の安全を確保できるところへ避難しましょう。

④避難場所(目安)

上記の「③避難行動」を行うときに、どこの避難場所を目指すのか考えましょう。

- ◎洪水(外水氾濫)・・・自宅や付近の2階以上の高いところ。
- ◎内水氾濫・・・・・・・・・・〃
- ◎土砂災害・・・・・・・・・・自宅や付近の2階以上の高いところ。
崖や斜面から離れた場所。

<ポイント>

- ・自宅や付近の2階以上の高いところや崖や斜面から離れた場所に避難しても身に危険が迫っていると感じた場合、付近のより安全な場所を探して命を守るために避難しましょう。